



タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3507		
科目名	消防救急		
担当教員	山下 博之		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	水 2		
講義室	1502	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・危機管理		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード 学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-I〔理論力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 CRコード 学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 E1 学識と専門技能（55%） I1 理解・分析と読解（35%） I3 情報分析（5%） C1 倫理的思考・社会認識（5%）		
教員の実務経験	2009年から2015年にかけて消防庁所管のシンクタンクの研究員として、防火管理制度や高齢者火災、消防設備士制度、国民保護法制など消防政策に関する調査、研究業務に従事してきました。また、2018年度には、消防庁の「国民保護に関する懇話会」の委員を務めました。これらの業務を通じて得られた実務上の知見や経験を活かし、本講義を展開していきます。（第1、2、3、5、9、12、13回）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	平成24年中の我が国における火災発生件数は約4万4千件と国民にとって身近な災害であり、発生すれば生命、身体及び財産に大きな被害をもたらすため、その予防、警戒、鎮圧を行う消防活動は国民を守るうえできわめて重要です。また、災害、事故、疾病等による傷病者に対して、病状に応じた応急処置や、救命処置を行いながら医療機関へ迅速かつ的確に搬送する救急活動は、発生した災害や事故の被害を局限化するうえで不可欠でもあります。国民の安全確保を目指すこれら消防救急活動について、権限、組織及び運用の現状を概観し、その課題について考察します。 ※授業形態は講義形式により行います。 なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード 消防行政、警防、予防、救急救命、消防規制		
授業の趣旨	■副題 国や自治体の「政策」としての「消防」、「救急」の「特徴」と「成り立ち」、「課題」についての理解を深め、「消防」、「救急」のあり方を考える ■授業の目的		

	・消防機関の組織編制や消防業務、または消防・救急に関わる法制度に関する学識を深める。 ・消防政策の成り立ちや動向について理解し、「消防」と「救急」の課題に関して洞察する力を深める。 ・「消防」と「救急」のあり方に関する自らの意見を表現できるようになる。 ■授業のポイント 火災発生時、消防士が消防車で現場に駆けつけ消火活動を行うという場面は、テレビニュースはもちろんテレビドラマや映画などでもお馴染みの場面です。ですが、近年火災の発生件数は減少し、実は消防士の仕事のうち警防（消火）業務の占める比重は小さくなり、むしろ予防業務や救急業務の比重が増しつつあります。また、地震や津波、風水害などの発生時、被災地で行われる救命・救助、捜索活動も消防士の重要な役割にもなっています。 このように、消防≠警防（消火）という一般的なイメージと異なり、消防は多様な役割を果たす行政組織です。本授業では、履修者がそうした消防組織や消防行政に関する基礎知識を習得しながら、消防のあり方や消防行政のあり方について考え、自分の意見を表現することができるようになることを目的としています。	
総合到達目標	■「消防救急」に関する学識を深めるため、消防機関の基本的な組織編制や消防業務、特徴について理解する。 ■「消防救急」を取り巻く構造的な問題を洞察し、自分なりの意見を表現できるようになるため、わが国の「消防救急」について歴史的、国際比較的な視点からわが国の「消防救急」の位置付けについて考察する。 ・火災及び火災と社会との関わりについて説明できる。（第2回） ・消防機関の組織編制及び消防機関の実施する「警防」、「予防」、「救急」、「救助」等の業務について説明できる。（第3～第7回） ・消防機関を取り巻く構造的な問題について「歴史的な観点」から考察し、自分なりの意見を表現できる（第7～第13回）。 ・わが国の消防機関の特徴について「国際比較の視点」に基づき考察し、自分なりの意見を表現できる。（第14回）	
成績評価方法	■小テスト3回（30%）：適用ルーブリックI1 （評価の観点）該当回の授業で扱ったリスクマネジメントあるいは特定のリスクに関わる理論やモデル、概念に関する理解度を評価します。 （フィードバック方法）翌週の授業で解説を行います。 ■リアクションペーパー4回（20%）：適用ルーブリックE1・I1・C1 （評価の観点）消防救急及びそれに関わる問題について十分理解した上で、それらを論理的、客観的に考察し、自分なりの考えを表現することができかどうかを評価します。 （フィードバック方法）翌週の授業で解説を行います。 ■期末レポート1回（50%）：適用ルーブリックE1・I1・I2 （評価の観点）消防救急及びそれに関わる問題について十分理解した上で、それらを論理的、客観的に考察し、自分なりの考えを表現することができかどうかを評価します。 （フィードバック方法）後日ポータルに模範解答を提示します。	
履修条件	特になし。	
履修上の注意点	・授業の進行を妨害し、または他の受講生の迷惑になるような行為が確認された場合には退席してもらうことがあるので、この点を十分に理解した上で履修してください。 ・各授業について、履修者の興味や理解度等に応じて適宜変更することもあるので、留意してください。	
授業内容	回	内容
	1	①第1回 ① 授業テーマ オリエンテーション：「消防救急」では何をどう学ぶか？ ② 授業概要 ・本講座の目標や各授業の内容、スケジュール、学習方法や参考資料等について説明します（E1）。 ・本授業により、履修者は本講座の全体像を把握し、自ら授業の準備を行えるようになる。 ・教員の実務経験を踏まえて説明します。 ③ 予習（60分） 本講座についてシラバスを通読しておく。 ④ 復習（180分） 授業のガイダンスとシラバスをもとに、本講座についての自分の学習計画を立てる。
	2	① 授業テーマ 社会的文脈の中の火災 ② 授業概要 ・火災の発生の仕方は、人々の生活の仕方と大きく関わっています。そこで本授業で

	は、特に人々の住居や住まい方に着目しながら、戦後の日本社会と人々の火災対策のあり方との関係について検討します（E1、I1）。 ・本授業により、履修者は人々の火災対策の変遷について、歴史的、社会的な視点から説明できるようになる。 ・教員の実務経験を踏まえて説明します。 ③予習（120分） 戦後の火災の発生状況（発生件数、死者数、火災発生源等）について調べ、エクセルソフトでグラフにまとめる。 ④復習（120分） ・授業ノートの整理 ・近年、女性消防職員の数がどのように推移しているかを調べる。
3	① 授業テーマ 消防行政（1）わが国の消防制度・組織 ② 授業概要 ・現在、全国には749箇所（2016年1月時点）の消防本部（消防局）が設置され、そこで16万人以上の消防職員が働いています。では、こうした消防機関はどのような法制度に基づいてどのように組織され、また、日頃どのような仕事を行っているのでしょうか。本授業では、これらの点を検討しています（E1、I1）。 ・本授業により、履修者は消防機関の組織や業務、これらが基盤を置いている各種消防法制の概要について説明できるようになる。 ・教員の実務経験を踏まえて説明します。 ③予習（120分） 全国の消防本部数、消防職員数がどのように推移しているかを調べ、エクセルソフトでグラフにまとめる。 ④復習（120分） ・授業ノートの整理 ・自分が住んでいる地域の消防本部の組織、職員数等を調べる。
4	① 授業のテーマ 消防行政（2）警防業務 ② 授業概要 ・ポンプ車やはしご車とともに火災現場に駆け付けた消防士が、火災の消火、鎮圧にあたるのが警防業務です。こうした警防業務は具体的にどのようなものなのでしょうか。また、警防業務にはどのような課題があるのでしょうか。本授業では、これらの点を検討します（E1、I1）。 ・本授業により、履修者は消防機関や消防士の業務の1つである警防業務の位置づけや概要、課題について、自らの言葉で説明できるようになる。 ③予習（120分） 映画『バックドラフト』を鑑賞する。 ④ 復習（120分） ・授業ノートの整理 ・警防による職員の出動件数がどのように推移しているかを調べる。
5	① 授業のテーマ 消防行政（3）：予防業務 ② 授業概要 ・近年、火災の発生件数は減少傾向にあります。2004年には60,387件だった出火件数は、2014年には43,741件にまで減少しています。このように火災が減少してきたのは、建物の防火性能や消防用設備の性能の向上、あるいはそうした建物や消防用設備等に対する規制が功を奏してきたからです。 ・本授業で着目するのは、そうした消防規制に基づき建物や事業者を監督、指導する消防機関や消防士の予防業務です。予防業務が具体的にどのようなものなのか、また、予防業務にはどのような課題があるのかを、本授業で検討します（E1、I1）。 ・本授業により、履修者は消防機関や消防士の業務の1つである予防業務の位置づけや概要、課題について、自らの言葉で説明できるようになる。 ・教員の実務経験を踏まえて説明します。 ③予習（120分） 『消防白書』で「予防行政の現況」について確認する。 ④復習（120分） ・授業ノートの整理 ・自分の身の回りにどのような消防用設備があるかを調べる。
6	① 授業のテーマ 消防行政（4）救急業務 ② 授業概要 ・わが国の救急自動車による出動回数は、2004年に500万件を超えて以降、一貫して増

	加し続け、2014年には598万件に至っています。救急出動は火災出動を大幅に上回り、今や救急業務は、消防機関の中でも最も重要な業務の1つとなっています。 ・では、こうした救急業務は具体的にどのようなものなのでしょうか。また、救急業務にはどのような課題があるのでしょうか。本授業では、これらの点を検討します。 ・小テストのフィードバックを行います。 ・本授業により、履修者は消防機関や消防士の業務の1つである救急業務の位置づけや概要、課題について、自らの言葉で説明できるようになる。 ③予習（120分） 『消防白書』を使って救急体制（救急出動件数、救急隊員数等）について確認しておく。 ④復習（120分） ・授業ノートの整理 ・救急業務について、授業で挙げた以外にどのような点が課題とされているかを『消防白書』を使って調べる。
7	① 授業のテーマ 消防行政（5）東日本大震災の例 ② 授業概要 ・消防機関は、日常的に警防、予防、救急業務に取り組む他、いざ自然災害が発生すると被災した住民の救命救助を行う災害対応業務に取り組むことになります。 ・では、消防機関による災害対応は、どのように行われるのでしょうか。本授業では、東日本大震災を例に自然災害発生時の消防機関や消防士の役割、巨大災害に対する緊急消防援助隊の制度と課題について検討します（E1、I1）。 ・本授業により、履修者は消防機関や消防士の業務の1つである災害対応業務の位置づけや概要、課題について、自らの言葉で説明できるようになる。 ③予習（120分） 緊急消防援助隊のしくみを調べる。 ④復習（120分） ・授業ノートの整理 ・『東日本大震災記録集』（消防庁）（p231）で被災地の消防本部の活動状況を確認しておく。
8	① 授業のテーマ 消防行政（6）首都直下地震における地震火災 ② 授業概要 ・かつて首都東京や横浜を襲った関東大震災では、地震の揺れ以上に火災による甚大な被害が発生しました。現在懸念されている首都直下地震でも、大規模な火災により深刻な被害が発生すると予想されています。 ・では、実際のところ首都直下地震ではどのような火災被害が発生すると予想されているのでしょうか。これに対し、消防機関はどのような対策を行い、そこにどのような課題があるのでしょうか。本授業では、これらの点を検討します（E1、I1）。 ・本授業により、履修者は首都直下地震による地震火災概要と対策、課題について、自らの言葉で説明できるようになる。 ③予習（120分） 首都直下地震における被害想定を調べる。 ④復習（120分） ・授業ノートの整理 ・首都直下地震が発生した場合の避難経路（自宅から最寄りの避難所まで徒歩で移動する道のり）と帰宅経路（大学から自宅まで徒歩で移動する道のり）を考える。
9	① 授業テーマ 消防行政（7）消防の専門性とキャリア ② 授業概要 ・消防機関が実施している警防、予防、救急のいずれの業務も、個々の消防吏員の経験と専門知識によって成り立っています。特に、消防吏員の扱う資器材は年々複雑化、高度化し、消防吏員に求められる経験や知識もより高度なものとなっています。 ・では、そうした専門性を持った消防吏員はどのようなキャリアプロセスで育てられ、またそもそも消防吏員が求められる専門性とはどのようなものなのでしょうか。本授業では、これらの点を検討します（E1、I1）。 ・本授業により、履修者は消防吏員が必要とされる専門性やキャリアプロセスについて、自らの考えを自分の言葉で説明できるようになる。 ・教員の実務経験を踏まえて説明します。 ③予習（120分） 『消防白書』等をもとに、消防機関がどのような設備、資機材を保有しているか調べる。 ④復習（120分）

	・授業ノートの整理 ・『消防白書』をもとに、消防技術に関して現在どのような研究が進められているかを調べる。
10	① 授業のテーマ 消防の政策学（１）消防の公設化 ② 授業概要 ・消防組織法上、消防機関は市町村等の基礎自治体に属する行政組織と位置付けられています。しかし、過去の日本では、消防を主に担っていたのは行政組織ではなく一般の住民たちでした。このように住民たちが担っていた消防が、どのようにして行政組織が担うようになっていったのでしょうか。本授業では、江戸時代から明治時代にかけての、社会の変化と消防の公設化との関わりについて検討していきます（E1、I1）。 ・本授業により、履修者はわが国の江戸時代から明治維新以降の時代にかけての消防体制について、歴史的な観点から自らの言葉で説明できるようになる。 ③ 予習（120分） 公益財団法人日本消防協会HP内で紹介されている「消防の歴史」のページを読んでおく。 ④ 復習（120分） ・授業ノートの整理 ・消防防災博物館HP内に掲載されている「消防の歴史」のページで消防の歴史をより詳しく確認する。
11	① 授業のテーマ 消防の政策学（２）市町村消防の誕生と常備化 ② 授業概要 ・戦前の日本では、警察の組織体制の中に位置づけられていた消防が、戦後いかにして市町村等の基礎自治体が消防を担う消防体制へと変貌を遂げたのでしょうか。本授業は、戦後改革における市町村消防創設の経緯とその後の常備化の取り組みについて検討します（E1、I1）。 ・小テストのフィードバックを行います。 ・本授業により、履修者は現在の消防の組織体制の誕生とその後の消防組織の全国展開の経緯について、歴史的な観点から自らの言葉で説明できるようになる。 ③ 予習（120分） 公益財団法人日本消防協会HP内で紹介されている「消防の歴史」のページを読んでおく。 ④ 復習（120分） ・授業ノートの整理 ・消防防災博物館HP内に掲載されている「消防の歴史」のページで消防の歴史をより詳しく確認する。
12	① 授業のテーマ 消防の行政学（３）：行政改革の中の消防組織 ② 授業概要 ・わが国では、現在、国や地方自治体で行政改革が進められています。それは、行政組織の一つである消防機関にも当然あはまります。特に、こうした行政改革の一つとして、消防機関で現在進められているのが広域化の取り組みです。では、消防の広域化は具体的にどのようなものなのでしょうか。そして、消防の広域化にはどのような成果と課題があるのでしょうか。本授業では、これらの点を検討します（E1、I1）。 ・本授業により、履修者は消防機関の広域化のメリットとデメリット、または消防機関のあり方について自分なりの考えを自分の言葉で説明することができるようになる。 ・教員の実務経験を踏まえて説明します。 ③ 予習（120分） 『消防白書』で消防本部数がどのように推移しているかを確認する。 ④ 復習（120分） ・授業ノートの整理 ・自分の住む地域の消防本部が管轄している地域を調べる。
13	①授業テーマ 消防の政策学（４）拡大する消防の役割（テロ対策における消防） ②授業概要 ・テロに対する消防の役割について、過去の事例、法制度をもとに検討します（E1、I1）。 ・本授業により、履修者は消防機関による国民保護法の概要や課題、あるいは警防、予防、救急など日常的に消防機関が実施している業務とテロ対策との関わりについて、自らの言葉で説明できるようになる。 ・教員の実務経験を踏まえて説明します。 ③予習（120分）

	授業で扱う地下鉄サリン事件について調べる。 ④復習（120分） ・授業ノートの整理 ・『消防白書』をもとに、国民保護についてどのような取り組みが実施されているのかを調べる。
14	①授業テーマ 消防の政策学（5）消防の国際比較 ② 授業概要 ・消防組織法により、全国の基礎自治体が消防の主な担い手となっていますが、このような消防体制のあり方は国によって大きく異なります。では日本の消防体制は、海外の消防体制とどのように異なっているのでしょうか。また、そうした違いがどのようにして生じたのでしょうか。本授業では、この問題を検討します（E1、I1）。 ・本授業により、履修者はわが国の消防機関の特徴について、他の国との比較によって説明できるようになる。 ③ 予習（120分） これまでの授業プリントとノートをもとに、日本の消防体制（組織編制と消防機関の役割）について整理する。 ④ 復習（120分） ・授業ノートの整理 ・『アメリカの消防事情（改訂版）』（海外消防情報センター）をもとに、アメリカの消防体制（p17～p34）を詳しく調べる。
15	① 授業のテーマ まとめ：何を学んできたか、これからどう学ぶか？ ② 授業概要 ・これまでの授業で学んできた点を整理し、これから理解をさらに深めていくべきポイントや、参考資料について紹介します（E1、C1）。 ・小テストのフィードバックを行います。 ・期末レポートのフィードバックを行います。 ・本授業により、履修者はこれまでの授業の全体像を把握したうえで、今後自分なりに学習することができるようになる。 ③ 予習（120分） これまでのノートと資料の内容を確認する。 ④ 復習（120分） ・これまでのノートと資料に目次や索引をつけるなどして情報を整理する。
関連科目	行政法と行政過程Ⅰ（RMGT2321）、行政法と行政過程Ⅱ（RMGT2322）、地方自治と法（RMGT2361）、災害対策論（RMGT3501）、災害と法（RMGT3401）、地域防災論（RMGT3505）、大規模事故論（RMGT3504）、国民保護（RMGT3502）、テロ対策論（RMGT3528）
教科書	特になし （適宜、レジュメや資料を配布する）
参考書・参考URL	■火災について詳しく知りたい人 辻本誠、2011年『火災の科学 火事のしくみと防ぎ方』（中公新書ラクレ） ■消防行政について詳しく知りたい人 消防庁『消防白書』
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 木曜4限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントメントをとることにより研究室またはZoom等で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント50%、パブリックセキュリティ30%、情報セキュリティ10%、グローバルセキュリティ10% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学70%：法学30%



